



優秀賞



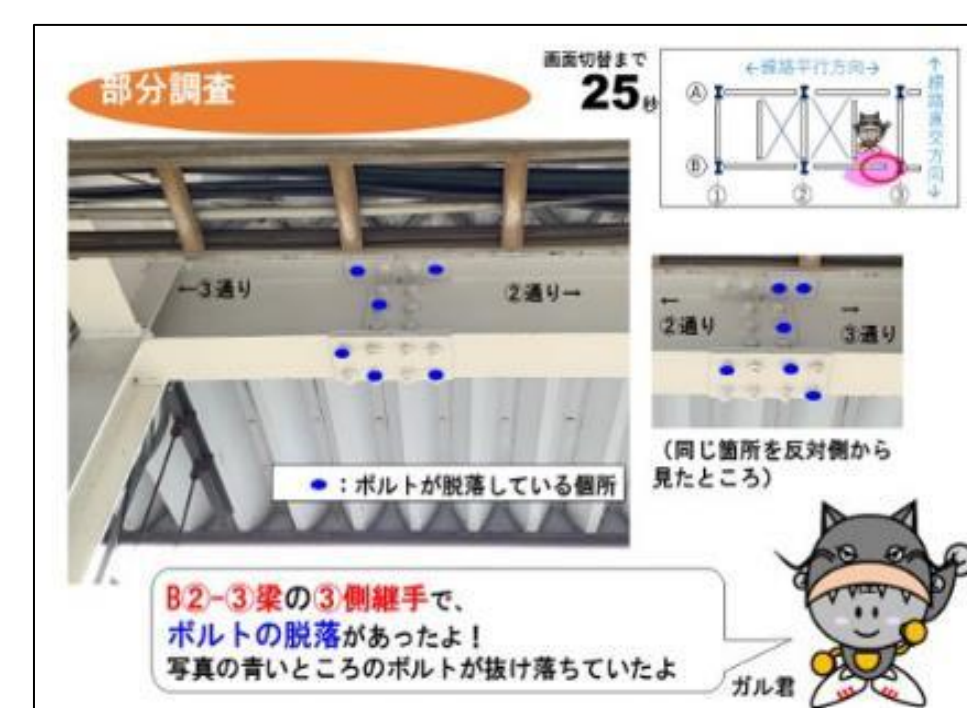
東日本旅客鉄道株式会社



アプリトップ画面



判定操作イメージ



訓練（実地試験用）動画



判定訓練風景

道鉄道野

鉄道建築物被災度判定アプリの開発と 判定訓練手法の確立

取組概要

当社において震災等により鉄道建築物が被災した際には、建築関係社員が列車運行可否や建物継続使用可否を判断する「被災度判定」を現地で行っている。しかしマニュアルの通読や判定表の準備など、被災時に正確に行えるか自信のない社員も多かった。

そこで今回「被災度判定アプリ」の開発を行い、タブレット上でタップしながら誰でも迅速に被災度判定を行う事ができるようにした。加えて被災度判定をロールプレイング形式で行える体験型の訓練用動画を作成し被災度判定に関する習熟度を向上させる手法を確立した。

受賞理由

災害時に専門技術者ではない駅係員が随時検査のサポートを行い、遠隔で施設の使用の可否を判断できるようにしたこと、検査の迅速性と正確性を向上させるためのツールを開発し、要員不足課題の解決にも寄与していることが評価された。

取組のポイント

被災時にマニュアルや筆記用具がない懸念やデータ集約に時間がかかること、判定者のスキルや経験により精度が一定ではないという課題に対して、アプリはマニュアル閲覧機能やデータ集計機能、体感的な操作感、写真保存機能を満たしたものとした。さらに調査を効率的に行う為に、部分調査ホーム画面から複数の部位についての項目を入力することができる。また通信障害を想定してオフラインでも使用できる。

訓練動画は、実建物を題材に実際に自身が被災度判定を行っているというシチュエーションを作り出し、より実態に沿った訓練となるよう作成した。

受賞者について



受賞者

東日本旅客鉄道株式会社 八王子建築技術センター
（左から）斎藤淳之/勝亦綾子
東日本旅客鉄道株式会社 首都圏本部 設備ユニット
（左3番目から）橋爪隆一/森本悠

コメント

この度は栄誉ある賞を頂きありがとうございます。自然災害対応は日々の業務で学ぶのが難しい一方、ひとたび被災すれば、我々鉄道事業者は利用者の安全や社会インフラ確保のため、迅速な対応をしなければなりません。今回の取組みはその一助を目指したのですが、今後もこの様な取組みを継続し、鉄道事業者の使命に応えて行きたいと思っております。

団体概要

東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）は、東日本エリアで約7,000kmに及び鉄道事業を営む世界最大級の旅客鉄道会社です。その中で八王子建築技術センター、首都圏本部設備ユニットでは、主に首都圏の駅など建築物の保守・管理を担っています。

問い合わせ先

東日本旅客鉄道株式会社
八王子建築技術センター
副長 斎藤淳之
TEL：042-621-1289
Mail：saitou-atsushi@jreast.co.jp